

## 巻 頭 言

### 今期執行部の課題と理事長としての抱負

武田雅俊 日本精神神経学会理事長

Masatoshi Takeda

本学会は、110年の歴史を有する会員数15,155名の精神科医の学会です。専門医制度の開始と共に学会参加者数は急激に増加しており、昨年には手狭となった事務所を移転し事務職員も変わり、準備を重ねてきた公益法人化を迎えて大きく発展しようとしています。このような時期の舵取り役として理事長に就任いたしましたからには、理事会の皆さんと力を合わせて学会のために全力を尽くそうと思っています。

まずは本学会の公益法人化を滞りなく完成させることが求められています。公益法人としての公益性の確保、財務会計の透明化、代議員制など多くの課題を乗り越えてようやく最後の段階となりましたが、会員諸氏の役に立つ公益理念を尊重した公益法人へ脱皮したいと考えています。

公益法人に移行しますと、その定款に則って来年には代議員選挙、理事選出、執行部選出が行われますので、今期に限っては1年間任期の理事会です。今期理事会では「専門医制度の定着と発展」、「国内外の諸団体との協力体制の構築」に力を注ぎたいと考えています。

#### 専門医制度の定着と発展

精神科医を志望する若い人を増やして、質の高い精神科医を育成することは、本学会の第一使命です。スタートした専門医制度を、若い精神科医の知識と技能の向上につながる有効な制度として発展させ、社会の要請に応えられるよう努力をしたいと思っています。わが国の医療の中で、精神科病床数は全病床数の20%、精神科病院数は10%、精神科医数は5%です。毎年の医師国家試験合格者数7,700名を考えると毎年400名の精神科医が誕生してもいいのですが、精神科専門医の合格者数は第1回133名、第2回65名、第3回105名と極端に少ない数で経過してきました。1年でも早く毎年400名の専門医を育成することは本学会の大きな使命だと考えています。

若い人に精神科の魅力を広く知ってもらい、精神科医としての知識と技量を研修してもらい、精神科専門医として矜持を以て社会に貢献していただきたいと思っています。本学会はそのような目的に沿って活動したいと思っています。

#### 国内外の諸団体との協力体制の構築

精神医学は、歴史的に見ても他の医学領域とは異なる背景をもっています。多くの精神科医は、精神科病院、精神科診療所、総合病院で診療活動を担当しており、大学の精神医学教室だけでは十分な医療活動はできません。もちろん、研究・教育は大学精神医学教室が担うべき領域であります。精神医療の実施に当たっては、病院やクリニックとの協力体制が不可欠であります。このような点を考慮して、精神科医療にかかわる全ての精神科医の意見が平等に反映される学会でありたいと思っています。

精神医学は、生物学的、心理学的、社会学的な側面を有する間口の広い学問領域であり、数多くの関連学会があります。会員数が1,500名を超える精神科関連学会だけでも22を数えます。このような学会会員のほとんどが本学会の会員でありますので、本学会は親学会としての調整機能を果たすべきであろうと考えています。そのような中で全ての精神科医の拠り所となる学術団体として発展させたいと思います。親学会としての調整機能を整えるためには、まず地方会の整備が喫緊の課題と考えています。日本精神神経学会と全国各地で活動している地方会との関係を整理して、各地の地方会の活動が推進され、そのことが本学会の力となるような全体のシステムを整備したいと考えています。

そして、そのような活動を踏まえてアジア諸国の精神医学会との連携から始めて、本学会が世界の精神医学の中で重要な役割を果たせるように努力したいと考えています。